
俺と魔王の冒険日記！？

白蜜庵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と魔王の冒険日記！？

【Nコード】

N3343Z

【作者名】

白蜜庵

【あらすじ】

まずはじめに言っておくが、俺は勇者なんて大それた男じゃない。だから魔王と異世界を冒険するなんてことできるはずがない。それなのに、どうしてこんなことになってしまったんだ！？

王道（？）ファンタジーの幕開けです！

何故か召喚されました

空中で風をきるような妙な感覚。

「ッ!!!?!」

自分の身に何が起きたのか考える暇も無く、無様に半回転した状態で地面につく。

一瞬では状況が理解できず、感じるのは全員の痛みだけ。

「のおわっ!?!」

背中から足への激痛に耐えられずにもがき、そのひょうしに頭も打つてしまう。

「・・・いってえ」

起き上がる気力もわいてこないの、倒れた状態のまま空を見る。

いつもと変わらないはずの青空には何もさえぎるものがない。

風は強めだが、さわやかな日差しがなんとも心地よい。

「いったいぜんたいここはどこなんだ？」

確かさつきまで自分の部屋にいたはずなんだが・・・

ずっとこうしているわけにもいかないの、起き上がるとしよう。

体はまだ痛むが、動けないほどではない。

やっと落ち着きを取り戻し、そのまま目の前を見る。

数メートル先には一人の美少女がいた。
いや、『気の強そうな少女』というべきだろうか？

見るからに意志の強そうなたつり目の瞳は何の混じりけの無い赤色。
ひざまで伸びるさらさらした髪に、とがった耳の上には2本の先端
部分がくるつとカーブした角まではやしている。

それに服装は藍色のマントに色のブラウス。それにこげ茶色のふわ
つとしたスカート。
胸の部分には赤っぽく光る石のペンダントをつけている。
それにすごい低身長。

「?」

その美少女は黙ってこっちを見つめてくる。
沈黙。

「あ……俺に何かようか？」

濃い茶色のブーツをトカトカとならしながらまっすぐ俺の方に近づ
いてくる。

そしてそのまま、ずいっと顔を近づけてくる。

俺と少女の顔の近さは、はなんと5センチあるかないくらい。

「!?!」

近くで見るとまつげが長く肌も透き通るような白々。
簡単に言つのなら、……可愛い。

どこかの雑誌のモデルか？

・・・にしてもやけに近いな！さすがに照れるぞ！

そんなことを思っていたら少女はスツと顔を引き、口を開いてこういった。

「成功したようだけど・・・いや、でも失敗？

どうみても弱そうだし、あゝあ、魔力もつたいない！」

第一声がコレだった。

少女の声はやっぱり幼い感じで、何かのアニメできいたことがあるようなないような

いわゆる『ロリ』っぽい声だった。

でも言っていることはさっぱりわからない。

成功って何のことだ？しかも魔力って・・・

たしかに彼女の服は魔女コスプレみたいなものだけど、だからって本物の魔女わけがない！

それに俺に俺のことを弱そうだとか言ってるやがる。

「ちよっと、聞いてるの!？」

おっと、考え事してる間に何度か呼ばれてたみたいだ。

怒って大きな声を出したときに気づいたんだが、八重歯がとがっていてまるで獣のようだった。

あれで噛み付かれたら、おそらく大変なことになるだろ・・・

ゲシッ!!!

蹴られた。

ブーツのそこが厚くなっていたのでマジで痛い。

ひどくないか？

ちょっと話を聞かなかっただけで蹴るなんて、初対面なんだぞ！？

「何するんだよ！」

あまりにも理不尽なんで怒鳴ってやった。

つーかまだヒリヒリする。

「何回も言わせないで！」

何回も言わせた覚えは無いんだが・・・

「口答えしないで」

やけにえらそうだな・・・

「いい？あたしは魔王サタンなのよ！」

腰に手を当てて自信満々な顔で宣言する『自称サタン』の少女は俺の返事を待っている。

はあ？？？

こっは、

おおー！そうですか、凄いですね

とでも言うつべきなのか？

冗談として笑うべきなのか？

俺がどう答えようか頭の中で考えをめぐらせていると待つのがめんどくさくなつたのか、少女が言う。

「アンタを召喚したから273万年分の魔力使い切っちゃった。」

シャー芯使い切っちゃった。

くらいに軽く言っているが273万年分って人間が生きられる年数を軽く越してるんだが・・・

俺は、ああ・・・そう。としか言いようが無かった。

「信じてないの？」

むすつとした表情で俺を軽く睨む。

今の話を信じると？

いやいやいや、どう考えても無理だろ。

「としかく！何が何でも信じてもらつたら！

今日からアンタはあたしの手下よ！」

そんなこんなで、

かわいそうな俺はサタンの手下になってしまったのである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3343z/>

俺と魔王の冒険日記！？

2011年12月11日15時50分発行